

[調査会 NEWS 678](20.8.28)

■国連人権委員会強制失踪部会からの高敬美さん、剛さんについての報告

真鍋貞樹

国連人権委員会強制失踪部会より、特定失踪者問題 2008 年 8 月 15 日付けで、高敬美さん、剛さんの失踪についての報告がありました。これは、去る 2007 年 6 月に、特定失踪者問題調査会がご家族の代理として、同部会に対して調査の申請を行ったことについての回答です。

その回答の概要(サマリー)は以下のようなものです。

国連人権委員会強制失踪部会は、貴団体から申請があった、高敬美・剛の失踪について、日本国政府ならびに北朝鮮政府に対して、伝達を行った。

本強制失踪案件について、2008 年 11 月 26 日から 12 月 4 日まで、ジュネーブの国連事務所にて開催される第 86 回セッションにおいて議題とされる。ついては、本件について、関係者によるセッションでの討議を希望するならば、本部会に対して連絡をされたい。

なお、北朝鮮政府より、本失踪案件について、2008 年 5 月 6 日付けで、回答が下記のようにあった。

「貴部会にて触れられた高敬美ならびに剛の失踪に関して、北朝鮮政府は一切無関係であることを明言する」

以上

<真鍋コメント>

国連人権委員会に対する申請は、政府認定拉致被害者については「救う会」が行ってまいりました。松本京子さんについては、拉致被害者認定後に日本政府として対応しました。しかしながら、高姉弟の失踪案件については、「政府認定」に至っていないため、調査会が家族の代理として申請を行ったものです。今後の対応としては、日本政府が在ジュネーブ大使館において、責任をもって対応されるように要請してまいります。

特定失踪者問題調査会ニュース

〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-8 第6松屋ビル 401

Tel 03-5684-5058 Fax 03-5684-5059

email: chosakai@circus.ocn.ne.jp

調査会ホームページ: <http://www.chosa-kai.jp>

戦略情報研究所ホームページ: <http://www.senryaku-jouhou.jp>

発行責任者 荒木和博 (送信を希望されない方、宛先の変更は

kumoha351@nifty.com 宛メールをお送り下さい)

●資金カンパのご協力をよろしくお願いいたします。

郵便振替口座 00160-9-583587 口座名義: 特定失踪者問題調査会

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 鷹の台出張所 普通 3810752

口座名義: 特定失踪者問題調査会 専務理事 真鍋貞樹

(銀行口座をご利用で領収書のご入用な場合はメールないしFAXにてご連絡願います)

MM

MMMMMMMMMMMM[調査会 NEWS 677](20.8.28)

■8月の定例記者会見について

報道関係各位

8月の定例記者会見は行いません。今後「再調査」等の動きに合わせて開催しますので、ご了解下さい。開催にあたっては通常通りこのメールニュースでお知らせします。

■ まず日本政府が「再調査」を

荒木和博

前号のニュースに引用された新聞記事にもありますが、政府(警察)は現在の認定者以外に多数の失踪事件について拉致の可能性を認識しています。しかし現実には9・17第一次小泉訪朝で曽我さんらが認定された後に政府認定されたのは田中実さんと松本京子さんの2人だけ(他に警察断定が高敬美・剛姉弟の2人)という状況です。

これらからすると、誰が見ても政府が拉致事件を隠蔽していると考えるのが普通でしょう。政府には少なくとも数十人の拉致が確実と思われるリストがあるはずで、10年ほど前には外電

でも流れました。私自身記事を書いた記者さんに会ったこともあります。リストに記された名前は分かりませんが、その中にはおそらく調査会の 1000 番台リストの失踪者、調査会ではまだゼロ番台だったり非公開だったりする失踪者、あるいは調査会のリストにない失踪者も含まれているはずです。

今、日本政府は北朝鮮に「再調査」を求めています。考えてみると、北朝鮮に「再調査」させるより日本政府が日本国内に「(警察や外務省に対し) 権限が与えられた調査委員会」を作って、現在隠している拉致を明らかにすべきではないでしょうか。その方が北朝鮮のわけのわからない「再調査結果」を待つより遥かに「進展」につながります。

色々な状況から考えて、現在北朝鮮側は数人の拉致被害者については返す用意があると思われ。問題はそれを日本政府が受け入れられないのではないかとことです。たとえばその中に 1000 番台リストの人でも入っていれば「当事者は刑事告発までしているのになぜ今まで認定すらしなかったのか」ということになります。北朝鮮も日本の政権を倒そうとするなら拉致を隠すより、未認定の拉致被害者を出してしまうのが手っ取り早いのではないのでしょうか。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★9月21日(日) 仙台集会(救う会宮城主催)

- 仙台市
- 代表荒木が参加

★10月11日(土) 奈良集会(救う会奈良主催)

- 奈良市
- 代表荒木・理事三宅が参加

★10月19日(日) 秋田集会(救う会秋田主催)

- 秋田市
- 代表荒木が参加

■興味深い新聞記事を見つけました。

調査会常務理事 岡田和典

以下、2002年12月5日付 福井新聞より抜粋

一九七四年か、七五年の夏だった。愛知県警からの連絡で、美浜の海岸に招集がかかった。北の工作員がボートで沖へ出ていくのを目の前で見ていた」

福井県警の元公安警察官、西本（仮名）が重い口を開いた。心に引っ掛かっていたものを吐き出すような口調だった。

西本ら数人は、波打ち際から数十メートルの砂浜に潜んでいた。沖からゴムボートが寄ってきた。一人の男が乗り込むと、静かに離れていった。

「脱出するときは決まって朔（さく）（新月）の夜だ。真っ暗よ。あいつら何するか分からんぞ、と先輩に言われ恐れしかった」。指示は出国確認だけ。手は出さなかった。沖で待機する小型工作船のものらしい「ウオーン」というエンジン音だけが闇に響いた。

「北朝鮮の工作員は七〇年代以前から日本への潜入と脱出を繰り返していた」と西本。公安警察はそれを把握し、彼らがだれと会うのか注視していたという。

講師は「本庁の先生」と呼ばれていた。県警の施設で年数回開かれた北朝鮮関係の講習会。七九年か八〇年には拉致がテーマに加わり、本部と各署の外事担当二十数人が参加した。場所、日時は極秘。四十歳前後の”先生”は警察庁警備局外事課三係から来た。

西本はこの場で初めて拉致を知った。「福井、富山、新潟、秋田で事案があったと聞いた。鹿児島、宮崎も覚えがある。富山や秋田は失敗例だった。拉致とは呼ばず『工作員に連れて行かれた』という言い方だった」

警察庁が現在、北朝鮮による拉致と認定している十件十五人のうち、七件十一人は七七年九月からの一年間に集中。富山では未遂事件も起きた。同庁はこれらの事件の遺留品、飛び交った暗号電波、手助けした人物の証言を分析。当時から北朝鮮による犯行との見方をしていた。

「目的は日本語教育。北の仕業に間違いはない。」先生”の説明に西本は「小浜であれだけ山狩りやって、見つからないのはそういうことか」と納得した。

以下の点で極めて貴重な情報です。

(1) 79年・80年から警察庁は北朝鮮拉致を認識し、全国で外事担当警察官に講習を行っていた。

※梶山国家公安委員長が国会で北朝鮮による拉致を示唆したのが88年であり、この間警察は何をしていたのか。

(2) 79年・80年時に福井、富山、新潟、鹿児島連続アベック失踪を拉致事件と判断したのは理解できるが、未だに封印している宮崎での拉致事件・秋田の拉致未遂事件とは何を指すのか。

※福井（78年7月地村さん）富山（78年8月高岡アベック未遂）新潟（78年7月蓮池さん）鹿児島（78年8月市川さん・増元さん）である。宮崎での原さん拉致は85年に辛光洙が韓国で逮捕されたことにより発覚した。

(3) 警察は電波傍受・解析を行っていた。

※公式に警察が認めることはない。

(4) 手助けした人物（国内協力者）を逮捕することもなく接触している。

※80年時点で漏れ伝えられている国内協力者は久米さん拉致の李秋吉だけである。久米さんは石川県での事件であり、登場する都道府県に該当しない。

(5) 79年80年レベルで警察は日本人拉致の目的を日本語教育と看破している。

※拉致の目的を日本語教育のためとの認識は88年の大韓航空機爆破事件の金賢姫証言以降である。

9・17直後は拉致関連の記事が溢れました。我々の元にも様々な情報が入ってきました。工員と思しき人物からの情報も多数ありました。みなさんの資料に埋もれている情報がありましたら教えてください。当時の地方紙は宝の山とってます。

★彼らの 最後の 顔

まぶたを 閉じてやる
小さな 手も なく
それぞれの 影を 敷いて
そこ ここに 横たわる
屍体 (したい) たち

生きている 人々の ために
救済米を はこぶ
トラックも なく
ガソリンも ない
死んでからも
土に 埋めて欲しいと
願いながら 日々に
朽 (く) ちてゆく 屍体たち

あるものは 飢えて 死に
骸骨が 露 (あ) わになった 顔
あるものは 凍えて 死に
全身が まるまると こわばり
あるものは 病で 死に
ウジが うごめく

こう 死のうが
ああ 死のうが
彼らの 末期 (まつご) の表情は
不思議にも よく似て
生きている 私たちより
よほどに 穏やか

■調査会役員の参加する講演会等の予定

※公開収録（参加費 500 円・どなたでも参加できます）

生放送の様子を通常の集会と同じような形で公開します。

会場：UI ゼンセン会館 2 階会議室（18：30～20：30）

（東京都千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549）

※JR 総武線、地下鉄有楽町線・南北線・都営新宿線市ヶ谷駅下車 3 分 日本棋院斜向い

<http://www.uizensen.or.jp/about/index.html>

3、 内容

- (1) 今回の日朝実務者協議などに対する意見の発表
- (2) 米国のテロ支援国家指定解除に対する意見の発表
- (3) 北朝鮮人権問題に関する意見の発表
- (4) 北朝鮮核問題に関する意見の発表

4、 発言者

- (1) 調査会及びしおかぜネットワーク関係者
- (2) 関係家族（家族会・特定失踪者家族）
- (3) 関連NGO代表・専門家等

1 人 5～10 分程度の発言を行う（海外からのメッセージも含め）

最後にアピールを採択する。

5、主催 特定失踪者問題調査会

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★9月21日（日）仙台集会（救う会宮城主催）

●仙台市

●代表荒木が参加

★10月11日（土）奈良集会（救う会奈良主催）

4、 発言者

(1)調査会及びしおかぜネットワーク関係者

(2)関係家族（家族会・特定失踪者家族）

(3)関連NGO代表・専門家等

1人5～10分程度の発言を行う（海外からのメッセージも含め）

最後にアピールを採択する。

5、主催 特定失踪者問題調査会

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★9月21日（日）仙台集会（救う会宮城主催）

●仙台市

●代表荒木が参加

★10月11日（土）奈良集会（救う会奈良主催）

●奈良市

●代表荒木・理事三宅が参加

★10月19日（日）秋田集会（救う会秋田主催）

●秋田市

●代表荒木が参加

★12月7日（日）14:00～「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」（同会実行委員会主催）

●藤沢産業センター（JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り）

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ：090（9816）2187又は sukukaikanagawa@hotmail.com

も「調査」自体が馬鹿げた話で、拉致をしていった側が「誰を拉致したか調べる」などという話はどう考えても理屈に合わないでしょう。

唯一認められるとすれば北朝鮮のメンツを保つということで、まあそれでも何人か帰ってくるなら一定の成果はあったと言うべきでしょうが、それなら「調査委員会の設置」も「調査の進捗過程」の通報も全く無用です。例えば 30 日の期限を切って、「余計な説明は無用。それまでに全員出すこと。そうすれば制裁の一部解除を行う。しなければさらに制裁を強める」というのならともかく、途中の過程など、どうやったところで全くの作り話に過ぎないので、相手の話を聞く方が無駄です。

逆に問題なのは、今回の合意からすると、北朝鮮側が例えば「調査委員会を作った。委員長は誰で委員は誰だ」とか伝えてくれば、それだけで日本は制裁の一部解除に入れるということです（もちろん世論の動向を見てでしょうが）。最初に制裁解除があつて、それに理屈を付けているだけと思われても仕方がないでしょう。ちなみに 4 年前のとき出てきた調査委員会の責任者(?)は陣日宝という名前で、肩書きは「人民保安省捜査担当局長」でした。この名前の読み方「チニルボ」は「進一歩」と同じで、これは韓国語で「一歩前進」という意味です。これは実務者協議の日本側代表にわけのわからないオッサンを連れてきて「誠済矢目留」という名前にして出すのと同じことです。

相手が中山大臣と齋木さんのため、家族会の人たちもかなり言葉を自制していましたが、福田総理が拉致問題解決のために強い意志を持っているとか、政府が一体となってやっているという二人の言葉を信じた人はいないでしょう。私たちはなおのことですが、その言葉が逆に二人に対する不信感を強めたことは間違いありません。そして、秋に満足のいく結果（すべての拉致被害者の救出）が出る可能性はほぼゼロです。たとえ数人が帰ってきても、逆に大部分は棚上げ（再調査の継続などの言葉でごまかすのでしょう）になるはずで

「再調査」の細部などどうでも良いことです。政府は「救出」と言わず「帰国」と言っていますが、些末なことを大げさに言い、言葉をごまかして拉致問題の全体像を少しでも矮小化しようとしているとしか思えません。国民の側の本質を見据えた姿勢、建設的緊張感が欠かせません。だめなものはだめと、はっきり意思表示をしていくことが必要不可欠だと思います。

ちなみに調査会では緊急に下記の通りインターネットを通じて公開生中継を実施することにしました。ぜひ、今大事なことは何なのか、耳を傾けて下さい。

公開大発言会のお知らせ

8月11日、12日に行われた日朝実務者協議では結局「再調査」の進行に合わせて制裁の一部解除を行うことが合意されました。誘拐犯が「私が誰を誘拐したか調べてみる」というなどまるで話しになりませんが、さまざまな形で最後のあがきを続ける北朝鮮当局をここで取り逃がすことはできません。私たちは様々な立場の人々の声をより多くの人に知っていただくため、次のような情報発信の場を設けます。全国・全世界の方々に対するアピールを、ぜひお聞きください。また、東京近辺の方は公開収録にぜひご参加ください。

1、 日時 平成20年8月22日（金）18:30～20:30

2、 視聴方法

(1)インターネットによる全世界同時生中継

(株) ネットライブのホームページ (<http://www.netlive.co.jp>) からご覧になれます。

(2)生中継の公開収録

会場：UIゼンセン同盟会議室 U Iゼンセン会館2階会議室

(東京都千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

※JR総武線、地下鉄有楽町線・南北線・都営新宿線市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

※参加費500円・どなたでも参加できます。

3、 内容

(1) 今回の日朝実務者協議などに対する意見の発表

(2) 米国のテロ支援国家指定解除に対する意見の発表

(3) 北朝鮮人権問題に関する意見の発表

(4) 北朝鮮核問題に関する意見の発表

4、 発言者

(1)調査会及びしおかぜネットワーク関係者

(2)関係家族

(3)関連NGO代表・専門家等

1人5～10分程度の発言を行う（海外からのメッセージも含め）

最後にアピールを採択する。

5、主催 特定失踪者問題調査会

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★8月17日(日) 13:30～県民集会 in 水戸(救う会いばらき・拉致問題を考える茨城県地方議員連絡会主催)

- 水戸市・水戸市民会館
- 代表荒木が参加
- 問い合わせ：029-224-7521 または 090-1212-8084

★9月21日(日) 仙台集会(救う会宮城主催)

- 仙台市
- 代表荒木が参加

★10月11日(土) 奈良集会(救う会奈良主催)

- 奈良市
- 代表荒木・理事三宅が参加

★10月19日(日) 秋田集会(救う会秋田主催)

- 秋田市
- 代表荒木が参加

★11月30日(日) 14:00? 「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」(同会実行委員会主催)

- 藤沢産業センター(JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り)
- 常務理事杉野が参加
- 問い合わせ：090(9816)2187又は sukukaikanagawa@hotmail.com

能性もあります。

ところで、アメリカのレフコウィッツ・人権特使が 14 日に来日して家族会・救う会と調査会に会うことになっていました。家族会が役員数人、救う会と調査会がそれぞれ 1 人程度ということで（私が聞いた話では）、一応時間は空けておいたのですが、昨日になってキャンセルの連絡がありました。

実はこれは前科があり、レフコウィッツ特使は先月の 24 日にも来るといっておいて日程を空けたら、これも直前にキャンセルされました。まあ、あちらにはあちらの都合があるのでしょうが、結局は日本の扱いはその程度のことなのかも知れません。テロ支援国家指定解除が結果的にどうなるかは分かりませんが、北朝鮮が核をやめるつもりがないこと、人権状況を改善させるつもりがないことを分かっているながらとりあえず大統領が決断したということは、結局米国にとって核の傘も、人権意識も、そして日米同盟の重要性もその程度の認識である証拠とも言えます。

さて、米国が頼りにならず、日本政府が北朝鮮と奇怪な合意をしようとしている現状をどうするべきでしょうか。結局日本国民の声でこの現状を変えていくしかありません。現状では政治が自ら決断することはあり得ませんが、国民の声がバックにあることによって必ず動かすことはできます。「北朝鮮に返させる」ではなく「北朝鮮から取り返す」に、政府の方針を変えなければなりません。

ピンチの裏にはチャンスがあります。北は少なくとも数人は拉致被害者を返していいと思っているはずですが、それが全面解決を阻むための術策であることは明らかですが、いずれにせよ必ず転機はやってくるはずですが。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★8 月 17 日(日) 13:30～県民集会 in 水戸（救う会いばらき・拉致問題を考える茨城県地方議員連絡会主催）

●資金カンパのご協力をよろしくお願いします。

郵便振替口座 00160-9-583587 口座名義：特定失踪者問題調査会

銀行口座 三菱東京U F J銀行 鷹の台出張所 普通預 3810752

口座名義：特定失踪者問題調査会 専務理事 真鍋貞樹

(銀行口座をご利用で領収書のご入用な場合はメールないし FAX にてご連絡願います)

MM

MMMMMMMMMMMM

[調査会 NEWS 670](20.8.11)

■「再調査」など要らないのではないか？

荒木和博

再三書いていますが、政府は今日明日の日朝実務者協議で北朝鮮から何かの口約束を取り付けたことで制裁の一部解除に踏み切ろうとしているようです。

報道によれば「北朝鮮による再調査の検証も重視する。途中経過の報告を求めるほか、関係者からの聞き取りなどを認めるよう北朝鮮に働きかける方針」(讀賣)とのことですが、2 か月経って「再調査」の方法がどうか言っているのであれば、そもそも「再調査」など求めても意味がないということではないでしょうか。実際、齋木外務省アジア・大洋州局長は家族会や救う会・調査会への報告の席で「(家族が再調査を)望まないならしなくてもよい」と言っていました。

「再調査」に意味があるとすれば、ただ一つ、北朝鮮との間に何らかの合意があり、向こうから拉致被害者のリストを出させるのに、北朝鮮側のメンツが立つようにするというだけです。そもそも政府自身が「現体制下では(北朝鮮当局のある特定の部署により)拉致被害者の情報がしっかり管理されているだろうから、しかるべき人の『決断』さえ示されて『解決』に向かう方が、体制が転覆され大変な混乱状態の中でよりは、拉致被害者救出に現実として適する」(対策本部総合調整室長から認定者家族宛の手紙)と言っています。私はその認識は間違っていると思いますが、それが正しいとしたら、問題は「しかるべき人の『決断』」にあるわ

けであって、再調査の方法をどうするかなど、何の意味もないことです。

もちろん、巷間ささやかれている「何人かのリスト」を北朝鮮側がすでに官邸に提示しているなど、私たちの見えないところで何かが動いているならそれはそれで良いのですが、いずれにしても今回の実務者協議で「再調査の方法」を議論したりするなどナンセンスも甚だしいものですし、それで北朝鮮が「譲歩」したとして制裁一部解除などに至れば、これはまさに国民を愚弄したものとわざるをえません。

すでに「こうなったら座り込みでもするしかないのではないか」との話も出ていますが、今回に至っても北朝鮮が新たな拉致被害者の名前を出してこないなら、もう「再調査」など話題にもすべきでないと思います。そして制裁の一部解除どころか、さらに制裁を強めるべきです。もちろん「よど号」犯人の引き渡しなど取引材料にすること自体が問題外。政府は今自分たちのやっていることがどういうことなのか、しっかり考えるべきでしょう。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★8月17日(日) 13:30～県民集会 in 水戸 (救う会いばらき・拉致問題を考える茨城県地方議員連絡会主催)

- 水戸市・水戸市民会館
- 代表荒木が参加
- 問い合わせ：029-224-7521 または 090-1212-8084

★9月21日(日) 仙台集会 (救う会宮城主催)

- 仙台市
- 代表荒木が参加

★10月11日(土) 奈良集会 (救う会奈良主催)

- 奈良市
- 代表荒木・理事三宅が参加

■危険な予兆？

荒木和博

明日明後日の全国統一行動は「制裁解除反対」がメインスローガンですが、実際には米国のテロ支援国家指定解除が関心の中心になっているようです。

しかし、ここにきて何かキナ臭い雰囲気が出ています。それは同日に行われる 2 か月振りの日朝実務者協議を契機に日本政府が制裁解除に踏み切るのではないかという懸念です。すでに外務省はその線で動いているようですし（真相はやはり「藪の中」ですが）、官邸も制裁解除したくて仕方ないというところでしょう。

そうすると、テロ支援国家指定解除自体がどうなるかは別として、北朝鮮が何かを出してきて、それを理由に日本政府が制裁一部解除に踏み切るというのは既定路線のようにも思えます。何を出してくるか。もちろん、齋木・アジア大洋州局長が言ったように「これから再調査のやり方について協議する」などというものでは国民世論が許すはずはありません。2 か月のブランクに何をしていたのか、6月の合意はそもそも何だったのかという批判が集中するでしょう。「調査に日本の警察を入れる」などという合意も到底受け入れられるものではありません。残り1年の福田内閣にとってさらに袋小路に追い詰められる結果となることは目に見えています。

そうすると世論をごまかせるのは北朝鮮当局が拉致被害者（今まで名前が出ていない人とか、自分で勝手に行った人とか）を何人か出してくるということしかありません。少なくともそれなしに「再調査」のやり方を詰めたとか何とかいう屁理屈でごまかすのであれば、これほど国民をばかにした話はないでしょう（もっとも齋木さんは「北朝鮮がリストを提示したことはない」と言っているのですから、それを真に受ければすでにばかにしているとも言えないこともありませんが）。いずれにしてもこの動きは要注意です。

そしてもう一つ申し上げておきたいのですが、私たちが「日本人拉致の問題だけをやってはいけない。北朝鮮の人権問題を取り上げなければならない」と繰り返し言っているのはこれらの術策を打ち破るためという、ある意味功利的なこともあるということです。

もちろん、私は日本という大国の責任と誇りにかけても北朝鮮の人権問題に関心を持ち、その改善を目指すべきだと思っています。そしてそのための活動もしていますが、極めてテクニ

カルな意味でも、日本人拉致だけでやっている、カード（人質）を持っているのは北朝鮮なので、主導権は結局握られ続けるということがあるのです。そこに取引の余地が生まれます。もちろん、取り返す（返していただく、ではなく）ことが喫緊の課題ですから、取引も時と場合によっては必要ですが、最終的にすべての拉致被害者を救出するためにはあの体制との妥協はありません。

その最終目的を達するためには取引という場に引きずりこまれないことが必要で、そのためには収容所や脱北者の問題など、北朝鮮の人権問題全般で押していくことが必要不可欠です。

いずれにしてもこの数日が一つの山場です。本筋をしっかりとつかんでおくよう、皆で注意していきましょう。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合がありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★8月9日(土) 13:30～ 津和野町日原集会（東アジアネットワーク主催）

●津和野町・日原山村開発センター（津和野町日原 22-1 Tel 0856-74-0302）

●代表荒木・常務理事岡田が参加

●問い合わせ：長崎さん（090-7501-8960）

★8月10日(日) 13:30～ 北朝鮮による拉致被害者救出のための集い（東京都・都議会拉致議連主催）

●新宿区・東京都庁・都民広場（新宿駅・地下鉄都庁前駅下車）

●副代表真鍋他役員が参加

●問い合わせ：松浦芳子・杉並区議（090-3512-9841）

★8月17日(日) 13:30～ 県民集会 in 水戸（救う会いばらき・拉致問題を考える茨城県地方議員連絡会主催）

●水戸市・水戸市民会館

●代表荒木が参加

「救う会群馬」群馬ボランティアの会（大野 トシ江）

救う会高知（森田 和博）

救う会埼玉東部の会（古藤 勝次）

救う会・堺（西村 真悟）

救う会千葉（中村 実）

救う会徳島（陶久 敏郎）

救う会長野（塚田 俊明）

救う会奈良（佐藤 一彦）

救う会兵庫（長瀬 猛）

救う会福岡（青木 英實）

救う会三重（森田 優）

救う会宮城（安藤 哲夫）

救う会宮崎（吉田 好克）

救う会山形（齋藤 純一）

園田一・トシ子夫妻の家族を支援する会（栢山 正木）

CHOSUN BAND RESEARCH（柘植 裕子）

つくば、しおかぜ会（新井 佐和子）

電腦補完録（山本 孝司）

東京ブルーリボンの会（河村 裕子）

特定失踪者問題調査会（荒木 和博）

長崎拉致被害者救出ネットワーク（北村 芳正）

中村三奈子さんをさがす会（金井 英雄）

日本青少年（西山 俊一郎）

浜松ブルーリボンの会（石川 博之）

東アジアネットワーク（石原 倫理）

ブルーリボン柏崎（植松和彦）

法律家の会（土田 庄一）

民社人権会議（田久保 忠衛）

山形ビジョンの会（工藤 清）

山本美保さんの家族を支援する会（清水 仁）

予備役ブルーリボンの会（颯佐 正俊）

拉致事案全般研究会（松田 紗織）

拉致問題解決を目指す会（甲斐 直樹）

嶺南地区特定失踪者の真相究明を願う会（千田 千代和）

ワシントン DC らち連絡会（浅野 泉）

このうちの一つの組織である「予備役ブルーリボンの会」は予備自衛官・予備自衛官補・自衛官 OB だけで構成された組織です。他の会とも重複して入っておられるかたがいますが、このメールニュースをご覧の該当者で参加ご希望の方は事務局の古賀壮志さん（日野市議・予備 2 陸士 hinocity@kogasoshi.jp）までご連絡下さい。なお、去る 2 日に開催された発足記念の集會に田母神（たもがみ）航空幕僚長から送られたメッセージを紹介しておきます。

予備役ブルーリボンの会、発足おめでとうございます。

皆さんご存知のとおり、各国の軍事力・防衛力は現役兵力ばかりでなく、予備役の能力も含めて評価されます。日本においては、予備自衛官等の方々の力がそれにあたるわけで、皆さんの存在をたいへん頼もしく思っています。

さて、私は常々、自衛隊は日本の武士道を受け継ぐ素晴らしい組織であると内外で主張しておりますが、謡曲などで次のような話が伝えられています。鎌倉時代に、佐野源左衛門尉常世（さのげんざえものじょうつねよ）という武士がいました。彼は貧しい生活をしていましたが、執権であった身分を隠して旅の僧として全国廻向していた北条時頼に宿を貸し、大切にしていた鉢の木を焚いて暖をとらせる等精一杯もてなし、「自分は貧しい生活をしているが『いざ鎌倉』となれば直ちに駆けつけるつもりだ。」との決意を語りました。そして、実際に「いざ鎌倉」という場面が訪れると、真っ先に駆けつけその心意気を示したのです。予備自衛官等の方々は、平素は民間でそれぞれご活躍されながら、地道に訓練も重ね、一朝有事にはいち早く駆けつけようとする心構えを持たれ、まさにこの佐野源左衛門尉常世の武士道精神を体現されているものと、心から敬意を表します。

自衛官は、事に臨んでは危険を顧みず、我が国の平和と独立を守る使命を完遂していかなければなりません。その使命感の根源は我々の身の回りの人々、顔の見える一人一人の国民を守る、という気概であると考えます。そして、それが強ければ強いほど、自衛隊は精強となります。この度予備役ブルーリボンの会に入会された方々は、北朝鮮に拉致された国民の方々及びそのご家族の悲しみ、苦勞、憤りに思いを致し、救出を応援しようとする姿勢を示されたのであり、それはまさにこの気概を体現したものです。その心意気は自衛隊の精強性を内外に示すものです。どうぞこれからもその気概を持って、我々現役とともに我が国の平和と独立を守る

自衛隊の崇高な使命を果たすべく、ますます精進していきましょう。

予備役ブルーリボンの会のご発展を祈念しております。

平成20年8月2日

航空幕僚長 空将 田母神 俊雄

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★8月9日(土) 13:30～ 津和野町日原集会 (東アジアネットワーク主催)

●津和野町・日原山村開発センター (津和野町日原 22-1 Tel 0856-74-0302)

●代表荒木が参加

●問い合わせ:長崎さん (090-7501-8960)

★8月10日(日) 13:30～ 北朝鮮による拉致被害者救出のための集い (東京都・都議会拉致議連主催)

●新宿区・東京都庁・都民広場 (新宿駅・地下鉄都庁前駅下車)

●副代表真鍋が参加

●問い合わせ:松浦芳子・杉並区議 (03-3311-8710)

★8月17日(日) 13:30～ 県民集会 in 水戸 (救う会いばらき・拉致問題を考える茨城県地方議員連絡会主催)

●水戸市・水戸市民会館

●代表荒木が参加

●問い合わせ:029-224-7521 または 090-1212-8084

★9月21日(日) 仙台集会 (救う会宮城主催)

●仙台市

●代表荒木が参加

★10月11日（土）奈良集会（救う会奈良主催）

- 奈良市
- 代表荒木が参加

★10月19日（日）秋田集会（救う会秋田主催）

- 秋田市
- 代表荒木が参加

★11月30日（日）14:00～「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」（同会実行委員会主催）

- 藤沢産業センター（JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り）
- 常務理事杉野が参加
- 問い合わせ：090（9816）2187又は sukukaikanagawa@hotmail.com

[調査会 NEWS 667](20.8.5)

■公開の失踪者1名所在確認

公開の失踪者である塩沢勝己さん（平成7年6月失踪）が関東地方におられることが確認されました。すでにご家族も確認されています。関係者の皆様に感謝申し上げます。恐縮ですが、周囲の調査会ポスターで修正可能な場合は修正をお願いします。

なお、公開されている方ではありますが、プライバシーの問題があり、取材等にご遠慮いただきたく、勝手ながら報道機関の皆様にはお願い申し上げます。

■失踪者家族の自主的懇談会について

8月10日（日）13:30より、地下鉄後樂園駅前の文京シビックホール地下2階消費生活センター研修室において特定失踪者ご家族が自主的に開催する懇談会が行われます。

当日は調査会代表荒木の講演、「しおかぜ」の収録なども行われますが、全体としては家族間の懇談等が中心になります。今回はご家族の発案により自主的に行われるもので、自主的な懇

談会の開催は初めてのことです。

取材は冒頭の頭撮りと終了時に可能です。お問い合わせは調査会ないし今回の呼びかけ人の中心である小林七郎さん（小林栄さんの弟 090-4410-3242）にお願いします。なお、今回の参加対象者は特定失踪者家族及び、お身体の具合が悪い場合の介添者に限りますので一般支援者の参加はできません。ご了承下さい。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

（公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります）。

★8月9日(土) 13:30～ 津和野町日原集会（東アジアネットワーク主催）

●津和野町・日原山村開発センター（津和野町日原 22-1 Tel 0856-74-0302）

●代表荒木が参加

●問い合わせ：長崎さん（090-7501-8960）

★8月17日(日) 13:30～ 公開大討論会（拉致問題を考える茨城県地方議員の会主催）

●水戸市・水戸市民会館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：029-224-7521

★9月21日(日) 仙台集会（救う会宮城主催）

●仙台市

●代表荒木が参加

★10月11日(土) 奈良集会（救う会奈良主催）

●奈良市

●代表荒木が参加

★10月19日(日) 秋田集会（救う会秋田主催）

●秋田市

●代表荒木が参加

★11月30日(日)14:00～「拉致被害者と家族の人権を考える市民集会」(同会実行委員会主催)

●藤沢産業センター(JR藤沢駅北口より徒歩5分・藤沢郵便局隣り)

●常務理事杉野が参加

●問い合わせ:090(9816)2187又はsukukaikanagawa@hotmail.com

[調査会NEWS665](20.8.2)

■中山議員の拉致担当相就任について

荒木和博

中山恭子・総理補佐官が拉致担当相に就任しました。家族会の皆さんは概ね歓迎ということのようです。しかし私にはそうは思えません。敢えて警告しておきたいと思います。

今回の人事は政府との一体化路線見直し(特に家族会の)に対するつなぎ止めのためのものです。もともと9.17の後中山さんを引っ張ってきたのは福田官房長官(当時)ですし、その当時から家族会と政府のクッションという役割が担われていたのは間違いないでしょう。安倍政権から「居抜き」で引き継いだ内閣で、政府と救出運動の関係も一体化の路線が続いていたわけですが、先日の実務者協議などを契機にこの路線が変化し始めていました。

今回の「中山拉致担当相」はその権限も明確でなく、物理的にもできることは極めて限られていると思います。ご本人が猟官運動をしたという話もありませんから、本人が拉致問題を自分の力で進展させるという思いでなろうとしたのではなく、福田政権への国民の風当たりを抑えるための風よけではないか、きつい言い方をすればそういうことです。

中山さんの名誉のために言うっておけば、その制約の中でも何とか事態を前に進めたいという思いがご本人にあったことは間違いのないと思います。まだ「支援室」になる前の「中山参与室」と言っていた当時、私は救う会の事務局長でしたが、「始めて政府と同じ方向を向いて仕事をした」と感じたこともありました。そして、どんな話だったかは覚えていませんでしたが、補佐官になった後中山さんの口から、事態を前に進めようとする後ろから弾が飛んでくるといっ

たような趣旨の発言を聞いたこともありました。

中山さんは今参議院議員ですが、補佐官を続けたままでしたから、事実上政治家としての仕事はほとんどしていません。基本的には官僚が議員バッジを付けただけです。ご本人のホームページもずっと閉鎖されたままで、政府方針を越えては拉致問題に関する自分の見解の発信もしていません。これまでの経過からすればおそらく今後もできないでしょう。

安倍政権になったとき、家族会の人たちが「このときを逃したら拉致の解決はない。だから安倍政権を支える」という思いになったのは仕方ないことだったと思います。しかし、その「政府と一体」路線は結果的に失敗でした。安倍さんに本当に拉致問題を解決しようという思いがあったとすれば、その一体化路線自体が運動質的・量的低下を招き、結局は安倍さんの足かせとなったと、私は思っています。

同じ過ちを犯すべきではありません。それは時間だけが経過するだけではなく、ずるずると制裁を解除し、拉致問題を棚上げして国交正常化に向かう路線につながります。一体化になっていればそのとき救出運動まで道連れにされる懸念もなしとします。記者会見で中山さんは「全力をあげて帰国させるように努力していく」と言っています。やはり「取り返す」とは言っていない。その意味では政府の方針は変わっておらず、放っておけば今後も同様でしょう。

中山さんが本当に全ての拉致被害者を救出したいと思っているのであれば、拉致担当相として力を発揮してもらうためには運動をする側は「支える」のではなく可能な限りの注文を付け、国民世論によって政府の方針を変えるようにしなければなりません。おそらく中山さんは直ぐに家族会の人たちと会ったり、政府が一所懸命やっていることをアピールするでしょう。特定失踪者のご家族にも会うかも知れません。しかし、救出へ向けての具体的な動きがないのであれば、それはまさに福田政権としてのポーズでしかありえず、認められるものとは言えません。

せっかくの大臣就任に水を差すようなことを言えばまた各方面から嫌われるでしょうが、先日大沢孝司さんのお父さんも亡くなりました。時間の余裕はなく、国際関係の激変も予想されます。安倍政権のときの失敗を繰り返してはいけないと、切実に思います。

■調査会役員の参加する講演会等の予定

(公開の拉致問題に関するイベントのみ。救う会・家族会の役員と兼任の役員が参加する場合

もありますが、調査会の役員として出席する場合のみ記載してあります)。

★8月2日(土) 13:30～ 特定失踪者問題啓発集会 (救う会徳島主催)

●阿南市・文化会館

●常務理事岡田・理事三宅が参加

●問い合わせ：陶久会長 (0884-26-0090)

★8月9日(土) 13:30～津和野町日原集会 (東アジアネットワーク主催)

●津和野町・日原山村開発センター (津和野町日原 22-1 Tel 0856-74-0302)

●代表荒木が参加

●問い合わせ：長崎さん (090-7501-8960)

★8月17日(日) 13:30～公開大討論会 (拉致問題を考える茨城県地方議員の会主催)

●水戸市・水戸市民会館

●代表荒木が参加

●問い合わせ：029-224-7521

★9月21日(日) 仙台集会 (救う会宮城主催)

●仙台市

●代表荒木が参加

★10月11日(土) 奈良集会 (救う会奈良主催)

●奈良市

●代表荒木が参加

★10月19日(日) 秋田集会 (救う会秋田主催)

●秋田市

●代表荒木が参加